

福祉サービス第三者評価結果報告書（2021 年度）

2022 年 3 月 28 日

社会福祉法人京都市社会福祉協議会
白川児童館 館長殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)
電話番号 03-3486-5141
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036
	②	水野かおり	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H2101015
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	白川児童館		
施設連絡先	所在地	〒606 - 8414 京都府京都市左京区浄土寺真如町 155 - 2	
	電話番号	075-762 - 0014	
施設代表者氏名	館長 佐々木 猛		
契約日	2021 年 1 月 20 日		
自己評価票回答期間	2021 年 5 月 28 日～2021 年 6 月 29 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	2021 年 8 月 17 日～2021 年 8 月 31 日		職員回答項目
訪問調査日	2021 年 9 月 22 日		

京都市白川児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1	事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している	
	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している	○
	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	1. 経営層は、自らの役割と責任を表明し、職員に伝えている	○
	2. 経営層は、経営の改善、児童館活動の質の向上などに向けて取り組むべき方向性を提示し、指導力を発揮している	○
【講評】 法人は基本構想と児童館担当部の事業計画を明示して、実現に向けた取り組みを行っています ① 法人は「京都市の社協基本構想」を掲げ、住民主体の地域福祉活動の発展と地域共生社会の実現を唱っています。このことを法人のホームページ、広報誌、パンフレット、などの媒体により広く公表し、利用者への周知を図っています。児童館職員に対しては、その理解を深めるための研修を行い、目指す姿の実現のために自館の業務の中で何をするのかについて具体例を挙げながら話し合う機会を持ちました。児童館事業部としての事業計画を定めています。ホームページ等で公表するほか、各児童館の事業計画立案の基礎になっています。 ② 経営層は、業務権限や責任所在に関する「専決規程」を定めて自らの役割と責任の所在を明示しています。 ③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制を導入しています。各グループに部長を配置し、グループの統括、グループ館長会をスムーズに行う運用としています。このことにより、法人の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換が円滑に行われるようになっています。		

Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 利用者と地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っている		○
2. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
3. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3 地域との関係機関との連携を図っている		
1. 事業所として必要な関係機関との連携が、適切に行われている		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
【講評】		
地域の福祉を担う法人として、児童館も社会的責任を果たす事業に取り組んでいます		
<p>① 職員の心得やサービス姿勢を「信条」に明示しています。「職場倫理マニュアル」の策定、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。例えばハラスメント対応については、職員の職種に関わらず、採用時に法人の「ハラスメント防止に関する要綱」を明示して職員に周知しています。</p> <p>② 「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。</p> <p>③ 法人は地域公益活動を最重要事項の一つとしています。各児童館では、他施設との交流、地域の方々にも参画してもらう「児童館まつり」の開催、児童館運営協力会を組織し実施するなど、地域への働きかけを積極的に行う姿勢です。</p> <p>④ 各館におけるボランティアの積極的な受け入れも進めています。その際の「ボランティアの手引き」もひな形を示しています。倫理面、個人情報保護等については、準職員やボランティアにも職員同様に適用することを伝えています。</p> <p>⑤ 京都市地域子育て支援ステーション事業の基幹ステーションとして、地域の子育てに関わる関係機関や団体の中核として、子どもに関わる情報交換や会議、研修、子育て家庭に向けた事業を実施しています。</p>		

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している		○
3. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対して組織的に解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○

【講評】

苦情解決制度や利用者アンケートなどの方法でニーズや要望を把握し、サービス向上に繋げています

- ① 「苦情解決規則」を整備しています。これに基づいて第三者委員会を設置するとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意見の受け止めに努めています。苦情解決制度の案内は館内に掲示して利用者への周知を図っています。日常的に職員が意見や要望を聞いたときは、施設長に報告して速やかな解決に努め、必要に応じてと法人と共有して対応を図ります。
- ② 毎年「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。アンケートは法人本部で集約し、質問内容は定期的に刷新したり、表現の変更を行ったりしています。また、アンケート結果を児童館に掲示したり、児童館だよりに掲載したりして利用者や地域住民に公表し、透明性の確保とサービス内容の向上に努めています。
- ③ 放課後児童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して個別的な要望や意向を把握しています。また、日常の会話や連絡帳を通して児童館と家庭の共通認識が図られるように努めています。子どもの意見の尊重や子どもの主体的な活動を促す取組みとして、児童館ごとに子ども会議等を実施したり、意見箱を設置したりしています。子どもが意見を出し合って、活動の内容を決めたり、購入する物を決めたりしています。
- ④ 他団体が委託を受けている「中三学習会」や地域の実行委員会が開設している「子ども食堂」に施設提供や職員派遣を行い、地域への公益的役割を果たすことができています。

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

1	取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	
1.	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている	○
2.	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている	○
3.	単年度の計画は、担当者・スケジュールの設定などを行い、計画的に取り組んでいる	○
2	多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	
1.	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている	○
2.	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しについて職員が理解している	○
3.	事業計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している	○
4.	事業計画は、利用者に周知され、理解を促している	○
3	着実な計画の実行に取り組んでいる	
1.	計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している	○
2.	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○

2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

1	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	
1.	リスクマネジメント体制を構築し、事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例の収集と要因分析と対応策の検討・実施が行われている	○
2.	事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○
3.	子どもに施設・遊具の適切な利用方法を伝え、安全に遊べるようにしている	○
4.	子どものケガや病気の応急処置の方法について、研修や訓練に参加している	○

【講評】

社協基本構想を基礎にマニュアルや事業計画が策定され、計画的な運営が行われています

- ① 「京都市の社協基本構想」で今後5年間の児童館の中期計画を示しており、自治体の方針や社会状況に照らして時宜に応じた変更などを検討するようになっていきます。各児童館の単年度の事業計画もこの中期計画を基準にして策定しています。各児童館では、年度末に児童館事業、放課後児童クラブ事業別に年間活動報告を作成して課題を明確にするとともに、次年度の計画策定時に生かしています。
- ② 所管各館で運用している日誌システムは、共有データとして全職員が閲覧できるようになっており、事業計画の実施状況を把握、共有できる仕組みです。また、事業評価や見直しは事業計画の策定とセットで全職員が関わって行います。職員が意見を出し合い、共通の認識の上で、内容の充実や新しい取組みの計画が行われます。
- ③ 法人独自に「事故防止マニュアル」「緊急時の対応に関するマニュアル」「感染症予防対策のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備しています。また、定期的な避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成するなど、安全な児童館運営のための取組みが計画的に行われています。
- ④ 所管各館で利用児童の特性に応じて、遊具の使用法や遊ぶ際の決まりなどを工夫しながら示して、安全に遊ぶことができる環境づくりに努めています。同時に、職員は子どもの主体性を損なうことがないように、子どものやりたいことを吸い上げ、できるだけ実現できるようにすることを念頭に、子どもの支援を行っています。

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 採用に対する明確な基準を設けている	<input type="radio"/>	
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/>	
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/>	
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/>	
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/>	
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
【講評】 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています		
① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供

1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している

1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
4. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている	○

【講評】

地域と連携した児童館活動の周知・広報に努めています。

- ① 児童館便りは近隣小学校での全校配布を通して、小学生の全家庭へ周知している他、中学校には副校長に直接手渡しして情報を提供しています。また、保育園、保健センター、子どもはぐくみ室に配布を行い、乳幼児保護者への周知を図っています。乳幼児家庭については、民生児童委員主催の子育てサロンの中で児童館事業の周知もしていただくなど、関係機関も協力的です。
- ② 児童館便りの内容は、児童館を知らない地域の方にも様子がわかるように、写真や子どもの声を掲載するなどの工夫も試みています。また、イベント等はポスターやチラシを作成し、より広範囲に配布するなど、多くの方々に周知して興味を持ってもらえるような広報活動に努めています。
- ③ 地区社会福祉協議会や自治会に協力をいただき、町会や施設の掲示板に児童館便りを掲示していただくことで地域住民への周知を図っていますが、児童館の立地環境が通りに面しておらず、そこに児童館があることがわかりにくい状況です。児童館を周知する大きな看板の設置や掲示板等の活用が望まれます。

2 サービスの実施

1 遊びの環境整備を行っている

1. 遊ぶ際を守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている	○
2. 乳幼児から中高生までの子どもすべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	○
3. 子どもが自ら遊びを作り出したり、遊びを選択したりできるようにしている	○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	○

【講評】

児童館内の様々な場所が、子どもの居場所になるよう工夫をしています。

- ① 子ども一人ひとりが安心して過ごすための居場所づくりの工夫をしています。児童館内の限られたスペースですが、日差しが入る廊下や階段の踊り場、フリースペースなど、様々な場所を子どもが居場所として使えるようにすることで、子どもたちの安心につながっています。また高齢者施設との間の館庭を利用したイベントや外遊びの機会も作っています。
- ② 館内のルールなどは、子どもにもわかりやすいようにひらがなを振り、見えやすい場所に掲示しています。また、保護者に対しても児童館の利用案内を通して説明をしています。遊びのルールは、その時々の子どもの様子に合わせて変更するなど、子どもの気持ちや主体性を大事にした支援を心がけています。
- ③ 幅広い年齢の子どもたちの利用があり、自然な異学年交流が図られています。またグループ活動を取り入れることで、お互いを認め合い、高学年がリーダーとして活躍する場にもなっています。
- ④ 日常的に乳幼児親子の利用があり、小学生との自然な交流もみられます。乳幼児専用の遊具はわかりやすく整理されており、保護者自身で出し入れができるようにしています。また、たくさんのマンガや図書の充実はこの児童館の特長になっており、中学生の利用にもつながっています。

2 子どもの発達過程に応じた支援を行っている

1. 職員が、子どもの発達の一般的な特徴や発達過程について、研修などで学んでいる	○
2. 子ども一人ひとりの発達特性を把握し、発達の個人差を踏まえて支援を行っている	○
3. 子どもへの対応について、個々の事例に関する検討が職員間で行われている	○

	<p>【講評】</p> <p>子どもの発達過程について学び、支援につなげています。</p> <p>① 京都市児童館学童連盟の研修会を積極的に受講することで、子どもの発達過程の理解に努めています。また職員一人ひとりの経験や研修等での学びをお互いに伝え合うことで、より良い支援につなげています。</p> <p>② 日々の打合わせの中で子どもの様子を伝え合うことで、子ども一人ひとりの共通理解に努め、館として統一した支援につなげています。</p> <p>③ 気になる子どもの様子は、打ち合わせの記録や日誌などから職員全体で共有を図り、必要に応じてケース検討を行うなど、子ども一人ひとりの状況に応じた支援を心がけています。</p>														
	<p>3 乳幼児と保護者への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる</td><td>○</td></tr> <tr> <td>7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している</td><td>—</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>保護者のニーズに合わせた利用ができるような活動を取り入れています。</p> <p>① 登録制の年齢別乳幼児クラブ「こぐまちゃん」「しろくまちゃん」では、保育士や栄養士、支援センターなど関係機関と連携したプログラムを取り入れることで、専門家の話を聞いたり、相談したりでき、保護者の育児不安の解消に役立っています。だれでも自由に遊べる「あそびのひろば」や、「あかちゃんサロン」も設定しており、クラブに参加していない親子も気軽に参加できる機会を作っています。また、児童館内のみならず近隣の公園に出かけて活動する「きらきらひろば」では、児童館を知らない親子への周知につながり、来館のきっかけにもなっています。</p> <p>② 職員は積極的に保護者と関わることで、日常的に話しやすい関係づくりを心がけ、保護者同士のつながりの促進を図っています。保護者からの相談内容に応じて関係機関につなげています。また、地域の民生児童委員会主催の子育てサロンを児童館内で開催することで、民生児童委員と保護者がつながるきっかけになっています。</p> <p>③ 児童館の行事、駄菓子屋さんごっこの「よっといで！しらかわマーケット」では、乳幼児親子も参加できることを積極的に周知することで、おやつを通して小学生との交流の機会になっています。また、今後は近隣の高校と連絡調整を行い、高校生とのふれあい体験をする機会を検討しています。</p> <p>④ 年度末に利用者共通アンケートを行っています。保護者からは栄養士の話やリミックなどの希望があります。また、アンケート結果は今後の計画の検討の際に活用することで、保護者のニーズに合った活動を積極的に取り入れる仕組みになっています。</p>	1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○	2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○	3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○	4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○	5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○	6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○	7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	—
1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○														
2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○														
3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○														
4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○														
5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○														
6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○														
7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	—														
	<p>4 小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table>	1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○	3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○						
1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○														
2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○														
3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○														
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○														

	<p>【講評】 異年齢の活動を通して、子ども同士の関わりを大事にしています。</p> <p>① 子ども同士の遊びの中で、自然に異年齢の関わりができるよう職員が積極的に働きかけています。集団活動が苦手な子どもには、職員が個別に寄り添いながら支援します。縦割りのグループ活動を取り入れることで、お互いが協力し合うことや、認め合うこと、思いやる気持ちなどを育む機会となっており、高学年がリーダーとなって主体的な活動につながっています。</p> <p>② 放課後児童クラブ登録児童の利用が多い中、自由来館児童の日常的な来館につながるような行事の工夫をしています。また、子どもの活動中の様子や会話から、子どもが興味や関心をもっていることについて、職員間で共有しながら活動に活かしています。しらかわマーケットでは、児童館来館児童のほか、放課後児童クラブ登録児童、さらに乳幼児親子の参加があり、自然な交流につながっています。</p> <p>③ けん玉やコマ回しの検定を通して、年齢を問わず、それぞれに得意な子どもが名人となり、他児に教えるなど子ども同士の関わりを大事にしています。継続して取り組むことで励まし合ったり、お互いを高め合ったりする関係にもなっています。</p>										
5	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 中・高校生世代も利用できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある</td><td>—</td></tr> <tr> <td>4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 中高生世代の利用促進のため、遊具や図書の充実を図っています。</p> <p>① 日常的な中高生世代の利用は少ない状況ですが、児童館を利用していた児童には、日頃から地域で声掛けをしたり、挨拶をしたりすることを通して、気軽に来館できるよう職員全体で心掛けています。また6年生の継続利用を促すため、今後、中学生になってからも児童館に来館したくなる活動などについて、ニーズを聞く機会を作りたいと考えています。</p> <p>② 中高生世代が使用できる遊具や図書を用意しています。図書やマンガの充実により、のんびりマンガを読みに来る中高生世代もいることから、さらに、中高生世代に向けた活動内容や広報活動を検討することで、利用促進につながることを期待できます。</p> <p>③ 思春期の発達特性については、職員各自が学びを深めながら情報共有をしています。中学生の職場体験や中高生と赤ちゃんとの交流事業を行っていましたが、現在は取りやめとなっています。今後、再度学校との連絡調整を行い、取り組むことを検討しています。</p>	1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○	2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○	3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—	4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○		
1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○										
2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○										
3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—										
4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○										
6	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 子ども一人ひとりの主体性を尊重することを基本にして支援をしています。</p> <p>① 子どもたちには、子どもの権利をわかりやすい言葉「自分の気持ちを言ってい」など、例えを使って伝えています。また、子どもの権利条約をピクトグラムのようにして掲示することで、子どもたちによりわかりやすく伝えています。京都市児童館活動指針、京都市未来こどもはぐくみプラン等の子どもの権利擁護に関するマニュアルは全職員が常に確認できるようになっています。</p> <p>② 「しらかわアラート」は、子どもが発案した、その日の子どもの様子を「赤・青・黄」で表示する取り組みです。このことで子ども自身がお互いを意識することにもつながっています。</p> <p>③ 日頃から子どもの年齢に応じた話し方に配慮し、子どもとの信頼関係を築くことで、一人ひとりの思いを聞き取れるよう職員全体で心掛けています。また子どもからの相談内容は日誌に記入し、職員全体で共有しています。内容によっては全体で話し合い、解決の方向性を検討するなど、子ども一人ひとり</p>	1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○	2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○	3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○	4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○	5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○
1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○										
2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○										
3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○										
4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○										
5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○										

	<p>を大切にしたい支援につなげています。</p> <p>④ 年度末には利用者共通アンケートを実施して子どもや保護者の意見を収集し、次年度の計画に活かしています。高学年児童から「宿題をじっくり取り組む部屋が欲しい」との意見があり、日常、使用をしていなかった和室を宿題の時間に開放したところ、積極的に取り組む子どもが増えました。日常的には新しい遊具の紹介や説明を子どもが中心になって教え合ったり、遊びのルールもその場、その時の状況に合わせて子どもたちが話し合ったりするなど、子どもの主体的な活動がみられます。また、日々の帰り時間の放送は子どもたちが原稿を作成し、順番を決めて行っています。</p>																
7	<p>配慮を要する子ども・家庭への支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取ることにしている</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>【講評】</p> <p>保護者との信頼関係を大切にすることで、安心した支援につなげています。</p> <p>① 保護者との日常的なやり取りは連絡帳が主ですが、電話連絡や迎え時の会話など、直接話しをする機会を積極的に作ることで、信頼関係の構築に努めています。個別援助記録を作成し、年2回の個人懇談会を通じて心配事や気になることなどを聞き取り、職員全体の共通認識のもと、より良い支援につなげています。</p> <p>② 小学校の校長や担任とは、必要に応じて情報交換ができる関係があります。情報交換では、小学校、児童館での子どもの様子を相互に伝えあい、共通理解を図っています。児童館が小学校での子どもの状態を把握して支援に活かしていることで、子どもにとって安心な居場所となると同時に、保護者の安心にもつながっています。</p> <p>③ 配慮を要する児童については、職員全体で支援をすることを心がけています。日常活動においては、分け隔てなく過ごすことができるよう、他児との関係性に配慮しながら支援をすることで、子どもの同士の関係性や保護者との信頼関係を良好に保てるように努めています。</p>	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○	2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○	3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○	4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取ることにしている	○								
1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○																
2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○																
3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○																
4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取ることにしている	○																
8	<p>地域の子どもの育成環境づくりを行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>【講評】</p> <p>地域の子育て支援の中核施設として、ネットワークの構築を図っています。</p> <p>① 児童館独自の運営委員会の設置はありませんが、地域子育て支援事業の基幹ステーションとして地域の民生児童委員・保育園・学区社協等と情報交換を適宜行っています。各団体同士のつながりをさらに強化するためにも今後、ネットワークづくりの必要性を感じています。また基幹ステーション事業として近隣4つの児童館合同で開催する公園活動など、児童館同士のネットワーク化も図っています。</p> <p>② 地域の消防署や警察と連携した防災訓練や防犯訓練、交通安全指導を行うなど、子どもの安全安心な取り組みを地域と連携して行っています。</p> <p>③ 近隣小学校とは、学年だよりや、年間計画、時間割などをいただく他、定期的に子どもたちに関する情報交換を行っています。いただいた予定は事務室に掲示することで、子どもの帰宅時間や子どもの様子の把握に活用されています。</p>	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○	2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている	○	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○	4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている	○	5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている	○	6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている	○	7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある	○	8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している	○
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○																
2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている	○																
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○																
4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている	○																
5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている	○																
6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている	○																
7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある	○																
8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している	○																

	④ 定期的に近隣の公園に出かけ、外で遊ぶ機会を作っています。公園で活動することで、児童館を知らない子どもたちへの周知にもつながっています。また小学校の校庭を借りて遊ぶことで、児童館に来館していない子どもとの交流にもなっています。	
9	子どもを含めたボランティアの育成と活動支援を行っている	
	1. 子どもの活動にお手伝いやボランティア活動を取り入れ、健全育成活動の一環として実施している	○
	2. 乳幼児の保護者の主体的な活動を支援しつつ、ボランティアとして育成している	—
	3. 地域住民を受け入れ、ボランティアとして育成している	○
	【講評】 児童館活動や運営に地域住民が積極的に関わっています。	
	① 定期的に児童館周辺の清掃を子どもたちと行っており、近隣にお住まいの方々への児童館活動の周知とともに、子どもたちとの顔が見えるつながりにもなっています。日常的にも、遊びや諸活動はもちろん、館内の掲示物の作成なども子どもの「やりたい」の声を取り入れて積極的な関りを進め、子どもの主体性につなげています。	
	② 民生児童委員からの紹介で、地域の方が「将棋クラブ」にボランティアで関わっています。また、地域住民から遊具の寄付をいただくなど、子どもの育成に関わる日常的な協力があります。児童館施設の簡単な修繕なども近隣工務店の方がしてくれています。地域の方々が積極的に児童館活動に関わっています。	
	③ 乳幼児親子の自主的な活動はまだありませんが、今後、より主体的な関りが持ってもらえるよう、乳幼児クラスの中で保護者の声を聞く機会をつくることを検討しています。	

3 放課後児童クラブの運営【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】		
1	放課後児童クラブを児童館の持つ機能を生かして運営している	
	1. 放課後児童クラブは市町村の基準条例（最低基準）に基づいて行われている	○
	2. 放課後児童クラブに在籍する子どもと児童館に来館する子どもとが直接交流できるよう活動を工夫している	○
	3. 放課後児童クラブに在籍する子どもと地域の子どもや住民とが直接交流できる機会を設けている	○
2	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
	1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
	4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	○
3	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	
	1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
	2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
	3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○

【講評】

放課後児童クラブの利用にあたっては、丁寧な説明を心がけ保護者の安心につなげています。

- ① 放課後児童クラブの運営は京都市の条例や京都市児童館活動指針に基づいて行われ、希望する家庭の児童はすべて受け入れています。日常的には放課後児童クラブ登録児童の利用が多く、児童館来館児童は少ないですが、児童館のクラブ活動や、イベント等の来館時は自然な交流が図られています。
- ② 入会前には説明会を開催し、「学童クラブ入会のご案内」に基づいて説明して、保護者や子どもの不安の解消に努めています。放課後児童クラブの運営方針や目的などを伝えるとともに、質問にも丁寧な対応を心がけています。個人カードを作成し、配慮が必要な事柄などを記入してもらうことで、入会後の安心な支援につなげています。
- ③ 入会后、しばらくは保護者のお迎えをお願いすることで、子どもの様子を直接伝えるようにしています。また、連絡帳を通しても適宜子どもの様子を伝え、気になることは電話等で直接話し、安心した利用につなげています。3月の保護者懇談会では、放課後児童クラブ利用終了後の児童館利用について説明しています。児童館は18歳まで利用が可能であること、放課後児童クラブの利用が終了しても、児童館は継続して利用ができること、いつでも来館できることを伝え、子どもや保護者の安心につなげています。

4 特に配慮を要する子ども・家庭の個別状況に応じた対応と記録

1 特に配慮を要する子ども・家庭の情報収集、分析を行い、課題を理解した上で対応を図っている

1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を把握し記録している	○
---	---

2. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関と情報を共有し連携して対応している	○
--	---

3. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
---	---

4. 配慮を要する子ども・家庭の記録は、担当する職員すべてが共有し、活用している	○
--	---

【講評】

個別記録を作成し、職員全体の共通認識のもとで支援に努めています。

- ① 特に配慮を要する児童については、「児童の状況報告書」を作成し、保護者からの聞き取り内容や学校から得た情報を記録しています。また、日々の子どもの様子は、毎日の日誌に記入することで、職員全体の共通認識を図っています。介助者のみならず職員全体で支援することを心がけ、関わり方や必要な配慮など、気になることは全体で話し合うことで統一した支援を行っています。
- ② 京都市児童館学童連盟主催の研修等に積極的に参加し、資質の向上に努めています。受講後は、研修報告を行い、職員間の知識の共有を図っています。また、必要な際はすぐに館内ミーティングを行い、職員全体の共通理解を図って支援しています。
- ③ 小学校との情報交換は、館の担当者及び管理職による連絡会を通じて行い、その内容を職員全体に周知しています。家庭や児童の状況、学校や児童館での様子を伝えあい、相互の連携を図って統一した対応に努めています。

5 プライバシーの保護等個人の尊厳、権利の尊重

1 子どものプライバシー保護を徹底している

1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
--	---

2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○
-------------------------	---

2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
---------------------------	---

2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
----------------------------------	---

3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○
【講評】 子どもの権利やプライバシーの保護を徹底しています。	
① 個人情報の取り扱いについては、事前に保護者の同意の署名をいただいておりますが、具体的に使用する場面が生じる際は、その都度確認して承認してもらう仕組みです。子どもの支援をする上で必要となる情報は、全職員が共有できるようにしていますが、守秘義務については徹底しています。また、様々な場面で子どもの心情や尊厳に配慮した対応を職員全体で心がけています。	
② 子どもの話を聞くときは、一人ひとりの人権を尊重した姿勢を心がけ、否定的な言葉がけや傷つけるような態度がないようにしています。また、各家庭の価値観や生活習慣の理解に努め、共通認識のもと支援をするよう配慮しています。	
③ 法人作成の倫理マニュアルに沿って、職員一人ひとりが行動面で誤った対応をしていないかなどをチェックできるようにしています。日ごろから子どもへの対応について話をする機会を持ち、職員が常に相互に確認し合っています。	

6 事業所業務の標準化

1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供している児童館活動の標準的な実施方法を明確にして活動を提供している	○
2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
3. 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している	○
2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	
1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	
1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○

【講評】

京都市児童館活動指針や法人のマニュアルに基づいて業務の標準化を図っています。

- ① 児童館の業務は「京都市児童館活動指針」「児童館ガイドライン」「法人倫理マニュアル」に基づいて行っています。これらに定期的な見直しや改正などが生じた場合は、都度説明会や研修を受講することで、最新の情報を得て業務の標準化を図っています。日常業務や日々のルーティンワークは、職員それぞれが不便や不都合を感じたらすぐに話し合っで見直しを行うなど、常に業務改善の意識を持っています。
- ② 法人の利用者共通アンケートにより、子どもや保護者からの意見を取り入れています。アンケート結果は職員間で共有して話し合うことで、次年度の児童館活動へ反映させています。また、その結果は法人へも報告し、児童館内でも掲示をすることで利用者へのフィードバックを行っています。
- ③ 人事考課制度やOJTの導入により、職員の育成に努めています。館長は職員のヒアリングから職員の悩み

や課題を確認し、指導助言を行うことで各自の資質向上につなげています。職員間のコミュニケーションを大事にしながら、お互いが意見を出し合える関係性に努めています。
また職員は研修を積極的に受講しています。研修受講後は館内で伝達研修を行い、知識の共有を図っています。

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる

1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

- | | |
|--|-----------------------|
| 1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権を設定している | <input type="radio"/> |
| 2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している | <input type="radio"/> |

2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

- | | |
|---|-----------------------|
| 1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している | <input type="radio"/> |
| 2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている | <input type="radio"/> |

【講評】

情報の保管・管理は端末にアクセス権を設定するなど徹底して行っています

- ① 個人情報が表示されている書類は、鍵のかかる場所に保管し、必要なときは適時、職員が確認をすることになっています。また、日誌類の記録はデータ化が行われ、子どもの情報をより系統的に記録し、職員も情報の検索が容易になっています。データは厳重に保管管理が図られています。
- ② 個人情報の取り扱いについては、保護者に説明を行い、理解を深めています。また同意書を求めるなど、書面でも確認した上で保管して、その取り扱いを徹底しています。
- ③ 実習生やボランティアには、活動に入る前に個人情報の取扱いや秘密保持について職員から説明して個人情報保護の徹底と子どもの人権の尊重を図るようにしています。

総評

■特に良い点

ポイント1	<p>子どもの居心地のいい居場所づくりのための工夫が見られます。</p> <p>児童館内の限られたスペースを乳幼児親子から中高生までの利用者それぞれが、安心して過ごせるような居場所づくりの工夫をしています。</p> <p>館内の日差しが入る階段下の踊り場には、小さな本棚とテーブルを置きフリースペースを作っています。児童館の特徴でもある、たくさんの漫画や本をのんびり読むことができる場所となっており、子どもたちの人気の場所となっています。また廊下に作られた壁際のテーブルは、中学生が漫画を読んだり、子どもたちの宿題や保護者との会話ができる場所として有効に活用されています。</p> <p>児童館と高齢施設の間にある屋外スペースは、必要に応じて活用することができます。水遊びを行うなど、館内だけではなく様々な場所を子どもたちの活動や居場所になるように工夫に努めています。</p>
ポイント2	<p>地域とのつながりを活かして、子どもの育成に取り組んでいます。</p> <p>児童館の運営委員会等の設置はありませんが、地域の方々が様々な面で児童館活動や子どもの育成に協力しています。例えば、主任児童委員を通じて乳幼児家庭に便りを配付していただき、児童館のクラブ活動である「将棋クラブ」には、民生児童委員からの紹介で地域の方が子どもたちに将棋を教えたりしています。日常的に児童館へ足を運んでいただく地域の方も多く、子どもの遊具などの寄付や館内の掲示物の作成など、児童館の活動や地域の子どもの健全育成活動に協力的です。児童館内の簡単な修繕は、近隣の工務店の方が行ってくれるなど、子どもに直接関わる活動だけではなく、環境整備にも地域の方が協力しています。</p> <p>近隣小学校とは定期的な情報交換や、必要に応じた懇談、校庭を借りた外遊びの機会などを通して子どもの育成を共に育む関係にあります。</p> <p>また、隣接する高齢者施設と日常的な交流があったり、消防署や警察と連携して避難訓練や安全指導を実施するなど地域の資源を活かして子どもの育成に取り組んでいます。</p>
ポイント3	<p>子どもの権利をわかりやすく伝えています。</p> <p>児童館が子どもたちにとって安心な居場所になるために、職員は子ども一人ひとりの権利を大切にし、子どもたち自身がお互いに権利があるという意識を育むことができるよう、子どもの権利をわかりやすく伝える工夫をしています。</p> <p>「児童の権利に関する条約」をオリンピックで馴染みになった「ピクトグラム」を使ったイラストにして掲示することで、子どもの興味関心につなげています。</p> <p>日常の関わりの中でも「自分の気持ちが言える事」自分の意見を「言っている」ということを伝えながら、子どもたち自身の権利について理解と浸透を図り、児童館活動でも積極的に子どもの意見を取り入れることで、子どもたち自身が意見を述べる意義を伝えています。</p>

■改善が望まれる点

ポイント1	自由来館者の利用促進への工夫が望まれます。
	<p>放課後児童クラブの利用を希望する家庭の子どもはすべて受け入れているため、児童館利用者のほとんどが放課後児童クラブ登録児童です。児童館の機能として、放課後児童クラブを利用していない地域の子どもの居場所や環境についても視野を広げ取り組むことが望まれます。児童館便りの配付も近隣小学校へ全校配付していますが、クラブ活動などの登録が必要な活動も多く、気軽な来館を促す工夫が望まれます。児童館は「いつでも」「誰でも」「自由に過ごせる」場所であることや日常的にできる遊びなどを便りに掲載することで、新たな来館者につながることを期待されます。また、中高生世代向けの活動内容の検討や周知の工夫が望まれます。中高生世代を対象にした取り組みなどは児童館便りとは別にすることや、白川児童館の特徴である漫画や図書の充実を周知することで、新たな来館が見込まれると思われます。</p>
ポイント2	児童館の周知拡大の工夫を期待します。
	<p>児童館の立地場所が通りに面した高齢者施設の奥にあり、児童館の存在自体がわかりにくい環境です。通り沿いの入り口にポールを立て児童館の看板を設置していますが、新たな来館者や初めて児童館を利用する子どもや保護者にとってはわかりにくいように見受けられました。子どもなら誰もが利用できる児童館として、周囲からもわかるような表示の設置が望まれます。</p> <p>また児童館活動のお知らせも、掲示板の設置がされていないため、隣接する柵に掲示するなどの工夫をされていました。掲示板も児童館の看板などと同様に設置されれば、道行く地域の方々へのより一層の児童館の周知と理解につながり、児童館活動への参加・協力や来館者の増加につながる事が考えられます。</p>